



健康社会学研究会

# ニューズレター No.81

発行：健康社会学研究会

事務局：〒164-8530 東京都中野区中野 4-21-2 帝京平成大学 現代ライフ学部 人間文化学科（担当 森川洋）

TEL 03-5860-4586 FAX 03-5860-4945 E-mail: h.morikawa@thu.ac.jp

ニューズレター NO.81/2016年10月 編集担当：下園美保子

## 第57回セミナーのご案内

テーマ：健康心理学からみるヘルスプロモーション  
～健康心理学と健康社会学の接点～

講師：文化学園大学 杉田秀二郎 氏  
シンポジスト：文化学園大学 佐藤浩信 氏  
文化学園大学 安永明智 氏  
文化学園大学 野口京子 氏  
コーディネーター：杉田秀二郎 氏

日時：平成28年12月 3日（土）14:00～17:00

会場：文化学園大学（新都心キャンパス）A館5階A054教室  
東京都渋谷区代々木3-22-1

参加費：会員無料、非会員2,000円、学生500円（大学院生除く）

終了後、新宿駅周辺で懇親会を予定しております

### 内容

ヘルスプロモーションの中で、健康教育（個人技術の開発）において心理学が果たしている役割は少なくありません。本セミナーでは健康心理学についての基調報告を行った上で、行動変容、ストレス、健康心理カウンセリングの各テーマについて発表し、健康心理学からみるヘルスプロモーションについて理解を深めることを目指しています。さらに、健康心理学と健康社会学との接点も探ることができればと考えています。

会場：新宿駅徒歩7分



## 第 56 回健康社会学セミナー報告

### 地域の変化を誘発する参加型アクションリサーチの理論と実際

プログラム：第 1 部 理論講演 「参加型アクションリサーチによる地域課題解決」  
芳賀 博 氏（桜美林大学大学院 教授）

第 2 部 事例検討

小比田 協子 氏（神奈川県座間市 健康づくり課 保健師）

佐藤 美由紀 氏（神奈川工科大学 看護学部 准教授）

理論講演・事例検討モデレーター

齊藤 恭平 氏（東洋大学 ライフデザイン学部 教授）

日時：平成 28 年 7 月 23 日（土）14:00～17:00

場所：東洋大学 朝霞キャンパス

平成 28 年 7 月 23 日（土）、東洋大学 朝霞キャンパスにおいて第 56 回健康社会学セミナーが開催されました。

今回は「地域の変化を誘発する参加型アクションリサーチの理論と実際」というテーマの下、参加型アクションリサーチの理論に基づいたヘルスプロモーション活動の実践例を発表していただきました。参加型アクションリサーチとは、特定のコミュニティの課題解決を目的とし、住民、実践者、研究者の協働により、学際的な問題の解決、研究参加者のエンパワメント、ローカルセオリーを創造する研究手法であり、近年では、保健・福祉の領域においても注目を集めています。今回のセミナーでは、そんな参加型アクションリサーチに早期より注目し、取り組まれてきた先駆者のお話を聞くことができました。

セミナーは 2 部構成で、第 1 部では芳賀博先生より、参加型アクションリサーチの理論を中心とした研究方法に関するご講演をいただきました。その上で、第 2 部では地方自治体の保健専門職と研究者、それぞれの立場からの実践経験について、小比田協子氏と佐藤美由紀先生の 2 名よりご講演をいただきました。

第 1 部では、芳賀先生ご自身の経験を踏まえ、参加型アクションリサーチを科学的な研究方法論として体系化するための具体的な方法についてご講演をいただきました。現在、実践的な研究手法として注目される参加型アクションリサーチではありますが、実は科学的で体系的な研究手法として十分に確立されているとは言えません。そこで、芳賀先生はトライアングレーションの視点の重要性についてご説明頂きました。トライアングレーションとは、複数のデータや分析方法を用いることを意味し、それにより信頼性・妥当性を評価や調査をより包括的にし、データを内省的に検討することも可能となります。この視点を取り入れたことで、研究プロセスをより「見える化」することが可能となります。それに伴い、研究成果の他のコミュニティへの転用可能性・波及可能性（Transferability）も高まり、研究をより「一般化」することも可能になりました。分析に用いるデータの例や分析の視点等に



についてもご丁寧にご教授いただき、大変勉強になりました。

第2部では、まず小比田氏より座間市での「高齢者の役割づくりに基づく社会的ネットワーク形成事業」について、自治体の保健師としての役割や苦勞、工夫に関するお話をいただきました。お話を伺った印象では、自治体の保健師はステークホルダーのコーディネーターとしての役割を全うされていました。ご講演の中では、住民のオーナーシップを促すためにフィードバックの方法を工夫されたことや、事業開始当初浸透していなかった地域包括支援センターの信用の獲得に向けての苦勞された経験を伺うことができました。また、参加住民からの情報提供により実行することができた出来事についてもお話しいただき、住民のステークホルダーとしてのパワーを実感することもできました。小比田氏のお話を通して、自治体保健師のコーディネーター機能とは、ステークホルダーの持つパワーを最大限活かすための働きかけであるように感じました。

続く佐藤先生からは、ご自身が実施した「高齢者における社会参加促進型ヘルスプロモーションに関する介入研究」について、一連の研究デザインをご提示いただいた上で、参加型アクションリサーチを行う意義についてお話しいただきました。ご講演の中では、参加住民の変化の過程が詳細に語られていました。特に印象的であったことが、出来事のポジティブな側面もネガティブな側面についても詳細に記録されていたことでした。ポジティブな出来事だけでなく、ネガティブな出来事も起こりうる参加型アクションリサーチにおいて、ネガティブな出来事についても積極的な姿勢で捉え、どのように解決したかを詳細に記録することが重要であるとのことでした。参加型アクションリサーチを行う意義は、こうした問題をステークホルダー同士の協力によって解決することで、コミュニティ・エンパワメントを引き出し、地域の変化を誘発することができることと実感しました。

話題提供後には、フロアの参加者より様々な感想や意見、質問が寄せられました。セミナーの勢いそのまま、その後の懇親会でも活発な意見交換が行われ、充実したセミナーとなりました。

社会科学の発想から生まれたヘルスプロモーションは、人々の暮らし・生活の場に焦点を当て、健康づくりの場をセットしていく点が特徴です。ヘルスプロモーションが目的とする「健康なまちづくり」において、そこで生活を営む住民の持っている発想やアイデアは言うまでもなく貴重な資源であり、これらの資源を活用した環境整備もまた健康の社会的決定要因であると思います。

今回のセミナーを振り返り、参加型アクションリサーチは新たな健康の社会的決定要因の創生の大きなヒントになることを感じました。 (報告者：上杉 剛)



## 第118回 月例会のご報告

平成28年9月10日(土) 帝京平成大学中野キャンパスにおいて、第118回月例会が開催されました。今回は「人口の5%が参加する健康長寿事業への挑戦」というテーマの下、三芳町健康増進課池田康幸氏及び滝澤司氏より、事例提供として現在の活動についてご報告して頂きました。

事例提供は2部構成です。第1部は池田氏より、「人口の5%を対象とした健康長寿事業」の概要、市内・市外の連携体制づくり、事業効果の検証、事業成果について、第2部は滝澤氏より、M町の事業の柱である食育推進事業のひとつ「SMILE プロジェクト」における産官学の連携についてご報告して頂きました。

## 第1部 【報告者】：池田 康幸 氏

「人口の5%を対象とした健康長寿事業」が計画されたときに、計画・実施・評価・改善のプロセスのなかで自治体職員としてどのように行動したのか。「連携・調整」「効果・成果」をキーワードに報告者より事例を提供し、参加者同士がディスカッションすることで、明日からの業務の一助となるような月例会のプログラムを行いました。

この事業は平成27年3月に3ヵ年計画で計画され、平成27年6月より開始されました。すなわち平成27年度当初予算には計上されず、平成28年6月議会において補正予算にて対応した事業です。このように限られた時間のなかで計画された理由として、事業経費のほぼ全額をS県独自の補助金を活用している点が影響しています。

補助金を活用する条件として、S県が医療費抑制効果を望める事業として「毎日1万歩運動」もしくは「筋力アップトレーニング」をプログラムし、さらに地域の実情に応じたプログラムを求めています。M町では「毎日1万歩運動」+「食育の推進」を事業の柱とし、各年度の事業目的と参加者目標を、1年目 わかる・気づく 1000人、2年目 かわる 1500人、3年目 続ける 2000人としました。大きなプロジェクトを推進させるうえで、市内連携や市外関係機関との「連携・調整」なくしてこのプロジェクトの成功はありません。関係機関とどのようにWin-Winの関係づくりについて報告されました。



## 第2部 【報告者】：滝澤 司 氏

第2部では「SMILE プロジェクト」における産官学の連携について報告されました。食育の推進は平成17年に制定された食育基本法により、生産者、加工業者、販売者など様々な立場により様々な情報が発信され、いまや食育という言葉は大多数が知っていると思われます。M町においても第2次食育推進計画のもと、各部署で様々な事業が展開されています。

このようななか、この健康長寿事業で「SMILE プロジェクト」を立ち上げた理由として、「食育の推進」に込められる「地産地消」と「健康」の2つのキーワードを住民にどのように伝えられるかということが焦点となりました。そして産官学がそれぞれWin-Winの関係ができるような工夫について報告されました。ちなみに SMILE は笑顔という意味だけでなく、「S：食生活を改善するために、M：みよし野菜を使った、I：アイデア、L：弁当を食べて、E：十分満足してほしい」という意味も込められています。



余談ですが、SMILE 弁当の発表会を9月26日（月）に行い、10月5日（水）から販売が開始されました。この発表会の模様は当日夜のNHK 首都圏ニュース 845で放送され、また販売前日の10月4日の読売新聞と朝日新聞の朝刊（埼玉版）にも掲載されました。

最後に参加者同士のディスカッションでは、「連携・調整を行ううえで重要なポイントはどこ（なに）か？」「効果・成果をどう発信するか？」の2点について時間の許す限り行った。このなかで「理念や目的の共有」「日頃からの関係性」「それぞれのメリットデメリット」などがキーワードとしてあがった。「連携・調整」「効果・成果」は、それぞれの立場により考え方が違うように、常に試行錯誤しながら明らかにしていくことが重要であると考えられた。

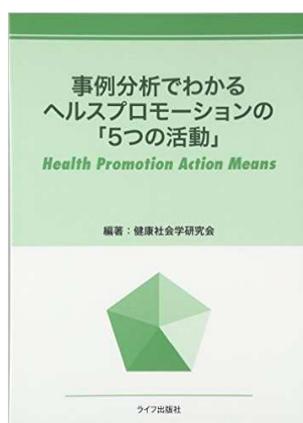
（報告者：池田康幸）



## 書籍の発刊のお知らせ

### 事例分析でわかるヘルスプロモーションの「5つの活動」 Health Promotion Action Means

◆編著 健康社会学研究会 ◆定価 2,500円（本体）＋消費税 ◆ライフ出版社



本研究会の特色のひとつとして、様々な分野で日頃より活動し、「人々の健康」をコンセプトに実践の世界と理論の世界を行き来しようとしている人たちが集まっているという点が挙げられます。本書は、そういった会員の皆様より寄せられた具体的な事例を取り上げ、「ヘルスプロモーションの5つの活動」という視点から検証しています。

会員の皆様にはすでにお送りしておりますが、関係各所にぜひご宣伝ください。事務局には本書のチラシ（次ページ参照）がございます。必要に応じ、チラシをお送りしますので、事務局まで直接ご連絡ください。

ウェブ上では「書名（事例分析でわかるヘルスプロモーションの「5つの活動」）」を検索エンジンにかけると、ネットでの購入が可能です。

なお、本研究会主催のセミナー・月例会・日本公衆衛生学会自由集会の際に直接会場にてお求め頂くと3割引き（税込み1,900円）での販売を行っております。

また本書に関するご意見、コメントなどもぜひお寄せください。よろしくお願いいたします。

（事務局 森川洋）